

坂越（千種川流域）地区 歴史文化の視点2

18. 村ごとの社寺と伝承

【ストーリー】

「庄内」と呼ばれた、ここ千種川下流域は、かつての自然堤防ごとに村が営まれ、水田地帯が広がっていた。地区内に多数見られる神社や寺院は、江戸時代に営まれていた村ごとに祀られていたものであり、区画整理事業が行われた現在でもそれぞれに残されていて、鎮守の森としての役割を果

たしている。

こうしたなか、「不生禪」と呼ばれる独自の仏法を説いた盤珪が悟りを開いた座禅岩や、高野の誓教寺では、六道絵による絵説きが今も行われるなど、その伝承が続けられている。



荒神社（砂子）



尼子山からの眺望



春日神社（南野中）

